



夢☆きらめに

No.
16

加東市教育委員会/加東市人権・同和教育研究協議会 平成25年11月1日



「人権文化をすすめる市民運動」ポスター優秀作品

三草小学校 1年 渡邊 海里 さん

目 次

● 「あとおし」	2	● 市民人権講座	8
● 小中学校人権教育講演会	3	● 人権啓発講演会	9
● 市同教の活動	4・5	● 小学生の人権作文	10・11
● 企人協の活動	6	● 人権標語・ポスター	12～15
● 広域隣保活動・人権エッセイ 2	7	● 人権トピックス	16

誰かの生き方に影響され自らの目標にした人がいる。それは若いときほどその力が大きいといえる。

加東市は本年度から中小学生を対象に人権教育講演会を開催している。あこがれをもちつづけ他の人権を大切にする生き方を学び「夢きらめく」人生をおくる機会になることを願つ。

ヘレン・ケラーが尊敬する日本人がいる。その人は江戸時代に七歳で失明したが様々な学問を究め今日の日本の国学史学の基礎資料を編纂した堀保己一である。日本訪問に際し彼の記念館を訪ね偉業をたたえたことは有名な話である。母から「堀先生を手本にしなさい」と励まされ育ち、人生の手本にして彼女は世界の障がい者の励みとなつていつたのである。

あこがれにあこがれる

あとおし

ちょっととした あとおしで

ひとは がんばれる

もともと みんな

がんばるちからが あるんだ

わたしが わたしを たいせつにできれば

あなたを もっと たいせつにできる

そして わたしの知らないひとをも

たいせつにするこころが うまれる

もともと みんな

たいせつにするこころが あるんだ

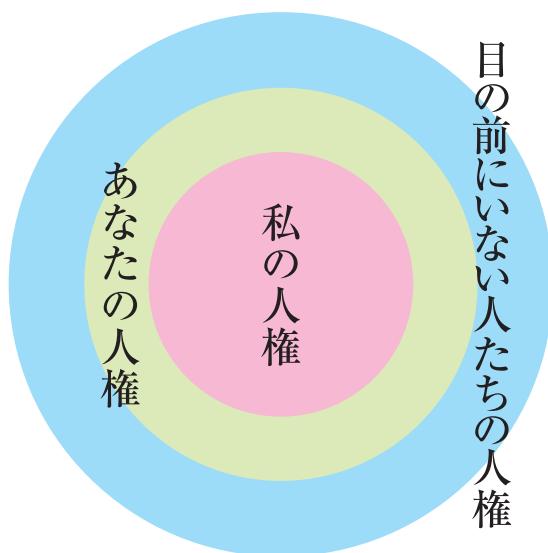
大東太郎

目の前にいない人たちの人権

人権の三層構造

人権を三層でとらえること
ができます。

私の人権
あなたの権利



私の人権、私の誇りを大切にしてほしいという私の人権が核にあって、その同心円上にはじめてあなたの権利を大切にしよう、さらに目の前にいる人たちの権利を大切にしようという考えが正しいものとして確信が持てるようになります。

そのためにはまず私の人権が支持される環境や一人ひとりが自己主張できるようにしなければなりません。

「人権教育の在り方について」一部引用

NEW 小中学校人権教育講演会

趣旨

加東市では人間力の育成を目指し、確かな学力の定着、他者とのかかわりの中で思いやりや命を大切にする豊かな人間性の醸成、健やかな体を育成する教育に取り組み、幼児から高齢者に至るまでの教育を推進しています。

「加東市小中学校人権教育講演会」は、加東の教育「かとう夢プラン」事業の一環として生命の大切さや人間尊重の心を育むとともに、夢を持つ素晴らしさを伝えることを目的に、市立小学校9校の5・6年生全児童と市立中学校3校の全生徒を対象に開催しています。



**あーよかったな あなたがいて
～心の銀行にいっぱい貯金を～**
講師：仲島正教さん（教育サポーター）
月日：6/13(木)
場所：東条文化会館
(対象: 東条東・東条西小学校)



夢に向かって

講師：大山加奈さん
(元全日本バレーボール選手)
日時：11/30(土) 14:00～15:30
場所：東条中学校



命の授業
～今の幸せに気づくことから夢はひろがる～
講師：腰塚勇人さん（元中学校体育教師）
月日：10/3(木)
場所：社小学校
(対象: 社・福田・三草・米田・鴨川小学校)

生きてるって幸せ

講師：道志真弓さん
(ナレーター元フリーアナウンサー)
月日：10/24(木)
場所：滝野東小学校
(対象: 滝野東・滝野南小学校)



出会いこそ生きる力

講師：サヘル・ローズ
月日：10/5(土)
場所：社中学校



僕は今日の講演会で話を聞いて、僕も自分の持っている時間を人のために大切に使える人間になりたいと思いました。こつこつ心の銀行に貯金して、人のために使える優しい人間になりたいと思いました。（6年生）

親は子供の応援団ということをしっかりと受け止めて子供を育てていきたいです。心の銀行にいっぱい貯金して、思いやりのある子に育ってくれることを願っています。（保護者）

働く意味・学ぶ意味 ～自己肯定感を育む～

講師：鳥居徹也さん（学校法人三橋学園夏見台幼稚園・保育園園主（経営者）、通称“キャラバン先生”）
月日：6/15(土)
場所：滝野中学校



これから世の中を切り抜けていくには、深く考えすぎず悪く考えない。それがとても大切な学びました。（中学3年生）

どんなに時間がかかるようと良い結果がつくるということは部活で体験したので、諦めずに頑張っていきます。
今日の話は自分に自信をつけることができました。感謝しています。（中学3年生）



加東市人権・同和教育研究協議会の活動

「生きがいと幸せを築き合う人間尊重のまちに」

加東市人権・同和教育研究協議会は、『生きがいと幸せを築き合う人間尊重のまちに』をスローガンに、

同和問題の解決を中心課題に据えて、社会の変化に伴い人々の暮らしに顕著に現れるさまざまな人権問題を明らかにしながら、組織体制を整え、教育・啓発活動、人権尊重に基づく学校・園（所）づくり、地域・まちづくりの主体的な取組を推進しています。

重点目標

- 1 地域社会における人権・同和教育の充実・活性化
- 2 学校・園（所）における人権・同和教育の内容の充実とその実践化を図る。

本年度役員（敬称略）	
会長	上月 嘉和
副会長	神戸 滋和
会計	松尾 美智子
監事	栗津 須津代
	岸本 知哉
	宮野 和雄

主な事業

- ◆総会（5月17日）
 - ・総会行事
 - ・ビデオ視聴
 - 『ヒロシマ原爆被爆なふれあい交流活動を推進する。』



- ◆連合婦人会（9月10日（火））
 - 『心豊かなふれあいを求めて』
 - 『人権感覚を磨く』
 - 人権教育推進員
 - 大東 太郎さん

（河合克夫さん）

（加東市ケーブルテレビ）

（公開授業）
保・幼班、小学校班、中・高班に分かれて実施予定。

【三草保育園にて】

◆理事会（団体代表19名）
・年3回開催

10月4日（金）

（河合克夫さん）

（歌い継ぐ語り継ぐ）
加古川市志方会館長

（高田 光裕さん）

◆専門部会
①住民学習推進部会
・住民学習説明会
・リーダー研修会

（5月30日）

（河合克夫さん）

（河合克夫さん）

◆運動会（つこをしよう！）

（河合克夫さん）

（河合克夫さん）

◆豊かな人権感覚をはぐくむ人権・同和教育の推進

（河合克夫さん）

（河合克夫さん）

◆地域と人との関わりを大切にしながら、発達段階に応じてどのように実践していくか

（河合克夫さん）

（河合克夫さん）

◆高齢者

（河合克夫さん）

（河合克夫さん）

◆団体別研修推進部会

（河合克夫さん）

（河合克夫さん）

◆行政職員

（河合克夫さん）

（河合克夫さん）

◆ネット社会と人権

（河合克夫さん）

（河合克夫さん）

◆兵庫県情報

（河合克夫さん）

（河合克夫さん）

◆セキュリティサポート

（河合克夫さん）

（河合克夫さん）

◆連合婦人会

（河合克夫さん）

（河合克夫さん）

【社地域】

9月4日（水）

保・幼班、小学校班、中・高班に分かれて実施予定。

（河合克夫さん）

（河合克夫さん）

（河合克夫さん）

◆ 各地区住民学習会

①スローガン

『高めよう人権意識

広げよう交流の輪』

②内容

- ・ビデオ学習や講演会等

による人権学習

主要教材ビデオ
『ほんとの空』



組みに対する助成

(総額41・8万円)

・第6分科会
「共生と人権」

兵庫教育大学附属中学校
牧草 哲也 教諭

『心豊かに生き抜く

生徒の育成』

* まだの地区は、至急申
請をしてください。

ー生命と人権を大切に
する学校文化の

関連事業

■ 兵庫県人権教育研究大会

東播磨大会(高砂大会)

7月27日(土)

高砂市文化会館じょう
とんばホール・高砂市福
祉保健センター・高砂市役
所南庁舎・高砂市中央公
民館で開催されました。



■下三草地区の取組
9月1日(日)
『楽しい語り・
コンサート』



地区住民学習から

■ 社4区の取組

8月25日(日)

講演・ヴィオラ演奏
ピアノ演奏
小寺 博美さん

（報告書の中より）
『ほんとの空』の視聴と
意見交換(44名)

■ 兵庫県人権教育研究大会

中央大会

10月5日(土)・6日(日)

豊岡市民会館・豊岡南中
学校で開催され、本市か

ら延べ10名が参加しました。

東播磨大会に引き続き、
5日、「学校における自主
活動」の分科会で兵庫教
育大学附属小学校の取組
を忠政教諭が発表されま
した。

①人を傷つけてしまった
と思われる事柄は、実の
ところ、自分自身をも傷
つけている要因であるこ
とを知った。

②純粋に伸びようとする
子どもの考え方を、大人
の身勝手な考え方から、何
の躊躇もなく曲げてしま
つている事実のあること
に気づく必要がある。

Aの青年海外協力隊とし
て活動された内容を、演
奏を挟んで語られました。
山本英恵さんが演奏とス
ライドを上手に使い分け、
参加者を講話に引き込み、
集中できていた。

中にはみんなで合唱す
る場面もあり、和やかな
雰囲気になりました。

※「誤った考え方」「思い

込み」「偏見」が造られて
いく過程が良くわかった。

この映画を振り返って、
何が問題であったのか、

もう一度考え、生活に生
かしたい。



・基本助成
・助成金
・特別助成
・創意工夫し意欲的な取
り組みに対する助成
1万5千円と地区の戸
数に応じた額
(総額208・5万円)

・第2分科会
「学校における自主活動」
兵庫教育大学附属小学校
忠政 善貴 教諭

『互いに認め合う集団

一受けつごら確かな実践・明るい職場づくり

加東市企業人権教育協議会の活動状況

私たち企人協は、人権が尊重される明るいまちづくりの一翼を担つて、人権啓発事業の実施や研修を積み重ねてまいりました。

職場（企業）においては、企業成果の向上に欠かせない心の通い合う人間関係づくり、職場でのいじめ、セクハラ、パワハラ防止に力点を置いた研修を積み上げてきたところです。

お互いの人権を尊重するための研修は、企業の社会的責任を果たす上で欠かすことのできないものです。

私たち『企人協』に参加する市内の商店・企業は、

社ブロック（45社）
滝野ブロック（26社）
東条ブロック（26社）の計97社に及び、企業規模（従業員数）に応じて年会費を納入して自主的な事業展開をしています。

■本年度重点目標
①企業代表並びに企業内の

人権・同和教育担当者等の研修会を開催し、明るく温かい職場づくりをめざす。

②人権・同和教育にかかる社員研修を行い、豊かな人権感覚を培い、具体的行動の実践に努めていく。

③企業間、企業と企人協事務局との密なる連携を図り、推進体制の確立と研修内容の充実に努める。

■本年度の取り組み 第一回研修会（5月実施） ビデオ視聴

「職場の日常から考える パワーハラスメント」

・「職場のパワーハラスメント」の問題が深刻化する中、暴力や暴言といった従来型のパワハラではなく、線引きが難しい事例について学習しました。

・相手の立場を考え、思いやりを持つて接する事が何よりも大事である。

第二回研修会（7月実施） 「スマートフォンと人権問題」 「つぶやきが及ぼす影響」

兵庫県情報
セキユリティサポートー

篠原 嘉一さん



第三回研修会（9月実施） プロの落語家に学ぶ 「雑談力」の鍛え方

落語家 林家 染二さん

《感想》
まずは、さすがは落語家だなというのが感想です。大きな声で、体を使って楽しく話す。まさに雑談力という感じでした。

◆講演の中で物事を違う角度から見ること、アンテナを張り、お互い気持ちよく居られる話し方をするということが印象に残っています。

◆ごめんね、そうだね、ありがとう、お疲れ様、いつも心がけたい言葉だと思いました。

◆他人の立場をよく考えた発言を意識し、しつかり挨拶する事で、また違った人間関係を構築できるのではないかと思った。



第四回研修会（10月実施） 「土地差別問題と企業の取組」 「土地差別調査事件」をもとに考える

大阪企業人権協議会
サポートセンター長
芝本 正明さん



◆市民ひとりひとりの忌避意識をなくしていくことが大切である。「自らのなかにある差別と向き合うことが大切である」ことを改めて感じた。

◆今までの常識では考えられない内容に仰天すると同時に大変参考になった。情報社会のスピード化にとてもついていけない。

お誘いとお願い



加東市マスコットキャラクター「加東 伝の助」

未加入の企業・商店の皆様、ぜひとも、加東市『企人協』に加入ください。
◆加入申込先 人権教育課内 企人協事務局
TEL 48-3598

広域隣保活動



絵本の読み聞かせ

図書館職員による絵本の読み聞かせを通じて、子どもが成長していく上で必要な、想像力・知識・知恵を身につけることを目的としています。読み聞かせが始まると、子どもたちは絵本の世界に引き込まれ、お話を夢中になっていました。子どもたちの表情は真剣そのもの。目と耳を傾けながら、お話を見守っていました。



25.8.22
窪田隣保館

物忘れ予防カフェ



25.8.21 久米公民館

みんなで楽しく語りながら、認知症の予防や介護について学びました。家庭のことや地区内のこと、昔話などにも花を咲かせつつ、お茶を飲みながら笑いにつつまれた和やかな時間を過ごしました。

こころの健康講座

懐かしい思い出に働きかける回想法、こころが元気になります。

楽しいおしゃべりで、人とのコミュニケーションの大切さを学びました。



25.8.28 窪田隣保館

人権エッセイ2

教育と啓発

部落差別と正面から向き合った名著『橋のない川』の作者、住井すゑさんの講演を聞きに京都へ行つた。講演の内容は覚えてはいますが、只一つ「貴あれば賤あり」と言わされたことが、今でも私の脳裏に強く残っています。

昭和四十五（一九七〇）年、転勤で私は加古川市の中学校へ移りました。ある日小野市で教えた卒業生に加古川の駅前でばったり出会いました。

「先生ほくな、同和学習なんかやつても意味あらへん」とクラス会の時に言ったといふ。

「どうして？」

「クラスのみんながどれ位部落差別のことに関心を持っているか知りたかった」と言う。私は改めて、同和地区の人々が、自分の住んでいる町から一歩外に出ることの厳しさを教えられた思いでした。

一方、住民学習では農民詩人坂本遼の研究者として活躍された山

本英孝さんと一緒に、地区学習会に参加させていただいた時の事。

比較的高齢の方が多く、開口一番「先生わしら部落差別がなくなるんやつたら、いつ死んでもええ」と。ここでもまた改めて部落差別の重さを実感させられました。

学校教育は、知識・技能など児童・生徒に学ばせること。一方住民啓発は、成人がすでに持っている知識・行動の在り方を問い合わせることではないでしょうか。

「オジイさん、毎年熱心に学習会に出席下さりご苦労さまです」と私は挨拶を交わした。「いやあ若い者がイヤがるから、わしが代わりにいつも来てるんや」と。改めても住民啓発の難しさについて考えさせられた。

（兵庫県人権問題研究
アドバイザー 尾城文雄）



第七期加東市民人権講座



私たち一生を終えて
この世に残るものは、
生涯をかけて集めたもの
ではなく、一生をかけて
与えたものである
ジェラール・シャンドリ
2013年6月22日
井上 米子

○各地域の人権教育を推進していただくためのリーダー養成講座である「加東市民人権講座」は、今年で第7回目を迎えました。本年度の受講登録者は地区推薦の239名。

また、市の幹部職員（45名）も受講登録し、率先して人権（同和）問題について研鑽することとなりました。

本年度の講座内容は三回シリーズで第一回は「人権啓発講演会」と兼ねました。



第一回（6月22日（土） 「がん」と告知されて 「よりよき生を全う するために」

メンタルケア協会講師

井上 米子さん

末期寸前の進行性大腸がんに冒された井上さん。手術から再び生を授かって今、病んでこそわかり得た、たくさんの気づきについて語っていただきました。多くの受講生にとって「生を全うする」ことの意味を考え、貴重な機会となりました。



講師プロフィール

オーストラリア・州立グリフィス大学看護学部卒業
神戸アドベンチスト病院元看護部長
現在、メンタルケア講師

著書

「がんと告知されて―よりよき生を支えるために」
『新・接遇辞典「ナースのマナー・レッスン ターミナルケアにおけるマナーとは』
「看護と介護」ほか

ご来場いただいた 皆さんのお声

- ◆日本人にとって「がん」という病気とどうつきあつていいのが良いのか考える機会となつた。鬪うより付き合うイメージを持ちました。人権を無意識に意識できる人間でありたい。（30代・男性）
- ◆看護師の経験から、治療を受ける立場となつて、あらためて生命の大切さ、生き方を考えるようになられたこと、それを私たちに広めていたいことに感謝したい。今後の日常生活に生かしていただき。（40代・男性）
- ◆相手の立場に立つて、希望の持てるような関わり方をしていくことが大切であると感じた。人のためになることは自分の幸福へつながつ

- ていく、という言葉を忘れず、生きていきたいと思う。「えられたことに感謝」も印象的であった。（50代・女性）
- ◆生きることは大変だと感じた。食べることが大切だと分かった。自分の生活が体に悪いことが多いが、どうしてのはやめられないが、少なくはないと思いました。（50代・女性）
- ◆今まで「がん」について深く考えたことはなかつたが、早いうちに「がんになつたらどうするか」ということを家族で話合つておかなければならぬと思いました。（30代・女性）
- ◆生きなつてしまふ。甘いものはやめられないが、少なくしようと思いました。（50代・男性）
- ◆生きたいと思いつつ、象的でした。食べる事が大切だと感じた。舞台女優としてただ愛してほしいだけ
- ◆「学校へ行きたいねん！」と野宿者の視点からーー野宿者ネットワーク代表 生田 武志さん
- ◆「貧困を考えるーこどもと野宿者の視点からーー」（人権啓発講演会）は P.9に掲載
- 第三回（10月26日（土）
「貧困を考えるーこどもと野宿者の視点からーー」
野宿者ネットワーク代表 生田 武志さん
- ※3回すべて出席された方には修了証の交付がなされました。

7月13日

人権啓発講演会

7月13日（土）、東条文化会館（コスミックホール）において、家庭、学校、地域などあらゆる立場から人権を考える学習の場として、「人権啓発講演会」が開催されました。

「人権啓発講演会」は、「子どもの人権と育成を考える講演会」と「人権と福祉のまちづくりフェスティバル」を統合した、新たな講演会です。

また、講演に先立ち、小学生3人による人権作文（全文はP10～P11で掲載）の朗読と社会を明るくする運動法務大臣のメッセージ伝達も行われました。

講師には、舞台女優の小林育栄（こばやしいくえ）さんをお招きし、不登校をテーマとした「学校へ行きたいねん！」を上演いただきました。



市長 保護司 小林健さん



藤本結月さん・山田帆乃佳さん・織田帆乃香さん

体の全てを使って熱い思いを表現される迫力ある小林さんの演技は、深く胸に響くものでした。いじめや不登校の問題だけではなく、部落差別や外国人、高齢者といった社会の様々な人権問題を含んでおり、参加者の一人ひとりが「人権」について改めて考える良い機会となりました。

- ◆ 社会をとりまく様々な難しい問題を解決するキーワードは「愛」であるということを再認識しました。（30代・男性）
- ◆ 子どもたちのしっかりとった作文を聞いて、すばらしいと思いました。お芝居も、かなり引き込まれ、「子どもが出すサインに気付いてあげてください」と言っていた育栄さんの言葉がすごく心に響きました。私も子どもがいるので、たくさん愛してあげたいと思います。ありがとうございました。（30代・女性）



講師プロフィール

舞台女優

ひとり芝居の先駆者である新屋英子と鶴野昭彦に見出され、2人の指導のもと数々の舞台に出演。全国各地を巡演し、迫真的演技は各界から絶賛されている。今、演劇界から最も注目されている新鋭女優である。

男性

- ◆ 忘れかけていた感情を思い起こされたようです。次の世代に人権について伝えたい。（50代・女性）
- ◆ いじめ問題だけでなく、多くの差別を含んでいたように思う。とても勉強になった。自分をさらけ出された最後の話がとても良かった。人に会うときにはさらけ出し接していくたと強く思いました。（60代・不明）

ご来場いただいた皆さんのお声

しくしていたから、おばあちゃんもやさしくしてくれたのだと思います。よくおばあちゃんといっしょにさんぱつも行っていました。おばあちゃんは一人で歩けないので、よくいっしょについて行きました。そのときに、車の乗り降りを手伝ったり、足が不自由で歩きにくいので、手を持っていっしょに歩いたりしました。それから、くつをはくときに、はきにくいと思って、つえを渡したり、くつをそろえてはきやすいようにしました。おばあちゃんは、手伝ったとき、いつも、

「ありがとう。助かるわ。」
と、喜んでうれしそうに笑っていました。私もそういう風に言ってくれると、心がほんわかしてきて、とても嬉しかったことを覚えています。

そんなおばあちゃんから学んだことがあります。それは、やさしく接することで、高齢者の方々がとてもいい気持ちになってくれて、こちらもうれしくなるということです。歩くことが不自由な高齢者の方には手をかけてあげる、何か物を落として取りにくそうだったらとてあげなどのことを自分から進んではいることがとても大事だということがわかりました。

米田小学校の活動で、すみれ園の訪問があります。すみれ園でのボランティア活動を通して、高齢者との交流を図り、自分から進んで声をかける勇気を持ちたいと思っています。そして、これからも、高齢者の方と、心と心のふれあいを大切にしながら、接していくたいと思います。



『お父さんに感謝』

滝野東小学校

6年 織田帆乃香

だんだんと暖かくなってきた春のことです。私は、お父さんと二人で電車に乗っていて、座りながら楽しくおしゃべりをしていました。

電車が駅に停まったときのことです。高齢のおじいさんとおばあさんが乗って来られました。二人は、つえをつきながらゆっくりと歩いてお

られました。電車の中に乘っている人は多く、座席は空いていませんでした。私は、「もう座る場所がないな。」と思いました。電車が揺れると、おじいさんもおばあさんもふらふらとされています。私は周りを見ましたが、だれも席をゆずろうとしている人はいません。

私は、「誰かかわってあげればいいのに。」と思っていました。

すると、突然お父さんが、

「席をゆずってあげる。」

と言って、急に立ち上りました。私は、「えっ、何で。」と思いました。お父さんは仕事が忙しく、帰ってくる時間も遅いので、疲れているはずです。「なんでお父さんが立つの。まわりの誰かがかわってあげればいいのに。」と思いましたが、仕方なく私も立ちました。

おじいさんとおばあさんはすぐに、にこにこしながら、

「ありがとう。」

とおっしゃって、とても嬉しそうに座られました。私は、急にお父さんが席をゆずると言い出したので、びっくりしましたが、おじいさんとおばあさんの笑顔を見ていると、席をゆずってあげてよかったなと思いました。

私は、お父さんはとてもかっこよかったです。高齢の方に席をゆずらないといけないということは、誰でもわかっていることです。お父さんはおじいさんたちのことを考えて、誰よりも先に声をかけてあげたからです。私はお父さんの行動力はすごいなと思いました。自分が正しいと思ったことを自分から進んで行動したお父さんをちょっと自慢したりました。

私は、誰かに席をゆずってあげると、ゆずつてもらった人も笑顔になるし、ゆずった人も嬉しい気持ちになるということが分かりました。

電車に乗っていて、この場面を見ていた周りの人たちは、自分がゆづればよかったと思っているかもしれません。この気持ちと勇気、そして、行動力があれば、どんどん優しい気持ちが広がり、みんなの心が温かくなると思います。私も今は、ますます人を大切にしていきたいという気持ちです。この気持ちに気づかせてくれたお父さんに感謝しています。

※この作文は7月13日に開催した「人権啓発講演会」で発表されました。



『笑う』

社小学校

6年 藤本 結月

私は、笑うことが好きです。他の子が笑っているのを見ても楽しくなります。

『笑う』ということは、大人から子どもまで誰にでもできますよね。例えば、どこかの国の見知らぬ人とも笑顔を通して、仲良くなれるでしょう。国籍や年齢に関係なく共通することがあるということは、嬉しくありませんか。

私たちの学年には、障害がある子がいます。その子たちも笑っています。クラスはちがうけど笑っている所を見るとその子の気持ちが分かる気がします。写真を撮る時も笑ってくれれば、「嬉しそうやな」など、思います。

私は、一年生の時にその子と同じクラスになりました。東京から転校してきたので、もちろんその子のことは、何も知りませんでした。転校して少ししたら、その子の生活も分かってきました。初めて会った時には、「変な子…」と思いました。例えば、授業中にいきなり声を出したり、急に立ち上がったりしていました。他にも、給食の牛乳は皆とちがってコップで飲んだり、手を動かしながら笑ったりしているのを見てそう思っていました。

でも、一緒に過ごすことでその子の事がよく分かってきました。

運動会の 50 メートル走で、完走できないと思っていたけど、その友達は時間はかかったけれど、完走できるとは思わなかったので、びっくりしました。

クラスのお楽しみ会で、全員でダンスをする時には、とても楽しそうに皆と一緒にダンスをしていました。その時には、その友達も笑っていたので、私も笑っていました。一緒に笑うことと、おたがい幸せな気持ちになれるということをその時に知ることができました。

全校朝会では、皆と一緒に拍手をしていました。その友達は、皆と同じように拍手がしたかったのだと思います。その友達も、私たちと

学校で一緒に過ごすことが、楽しいんじゃないかと思います。

その子のことがどんどん分かってくるたびに、「ごめんね。」といつも思っていました。その子のことが分かるたびに「変な子」と思っていたことがとても残念です。でも、今は、そんなことは何も思いません。例え、授業中に声を出していても、思いません。逆に、もっと話したり遊んだりしたいです。

世界には、いろいろな障害がある人がたくさんいるかもしれません。でも、その人たちとの接し方は誰でも同じです。

これからも、私の好きな「笑う」ということを通じて、障害がある友達とも、外国人とも、お年寄りの人とも仲良くし、人の輪を広げていきたいです。



『おばあちゃんから教わったこと』

米田小学校

6年 山田 帆乃佳

私は四年生のときに、福祉の学習で、認知症について学びました。

その学習の中で知ったことがあります。それは、高齢者の方々との接し方です。やさしく接する、話しかけるときはゆっくりわかりやすく伝える、体が痛くなることがあるのでだいじょうぶと声をかける。そう接することで、高齢者の方々が生活しやすくなるということがわかりました。

私の家にも、一年半ほど前まで、おばあちゃんが住んでいました。九十一歳でなくなってしましましたが、それまで元気に暮らしていました。でも、色々と手助けが必要になることが多くありました。足が悪く、腰も悪く、段の昇り降りや車の乗り降りがしんどそうでした。私は、そんなおばあちゃんの手助けをしました。歩くときに手を持ってあげたり、重い荷物を持ってあげたりしました。いっしょにお買物へ行ったりもしました。おばあちゃんはやさしくて、何でも好きな物を買ってくれました。ふだんからやさ

「人権文化をすすめる市民運動」

ポスター・標語の優秀賞・入賞作品

市内の児童生徒の皆さんを対象に、「人権文化をすすめる市民運動」ポスター・標語の募集を行い、ポスター97点、標語145点の応募の中から、選考の結果、以下の優秀賞・入賞作品が選ばれました。8月6日～28日までやしろショッピングパークBio多目的ホールで作品展を行いました。

[標語の部]

[優秀賞]

絶対ダメ!! 見て見ぬふりも いじめだよ
だいじょうぶ? だいじょうぶだよ! うれしいね
その笑顔 なんだかぼくも つられるよ
誰かじゃない 自分が言おうよ 「おかしいよ」
きっといる 心ゆるせる 「心友」が

[入賞]

「ごめんね」と すぐに言えて いい気もち
かけようよ 笑顔の虹を 青空に
いじめはね 自分も人も きずつける
「ありがとう」 言われて心 あたたまる
私の好きな私は差別をしない私です
つなげよう!!みんなの心 広げよう!!みんなの笑顔
えがおって やさしい心の はじまりだ
聞こえてる? 大事な友の SOS
思いやり 平和の種を 広げよう
いじめの輪 断ち切る勇気 君の番
SOS あなたの良心 試すとき
いじめの芽 みんなで一緒に つみとろう
さしのべた その手はだれより あたたかい
「あの子無理」 積もればいじめ その陰口
刃物より 言葉のつけた 深い傷

東条西小学校	6年	赤松
福田小学校	4年	服部
三草小学校	6年	藤浦
滝野南小学校	6年	永井
社中学校	3年	厚海
鴨川小学校	3年	悠貴
鴨川小学校	5年	坂本
社中学校	6年	時本
滝野東小学校	6年	悠貴
滝野東小学校	6年	織田帆乃香
米田小学校	6年	中池真唯子
滝野東小学校	6年	神津新菜
滝野南小学校	6年	岸本樹南
東条東小学校	6年	山田帆乃佳
社中学校	1年	中塚奈々
滝野中学校	3年	池見翔太
東条中学校	1年	田中優実
滝野中学校	3年	丸山愛美
東条中学校	3年	楳本颯梨
賢哉月		

【ポスターの部】

【優秀賞】



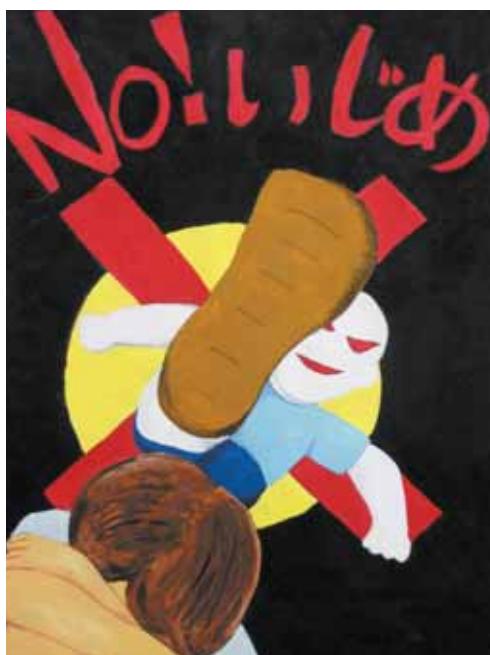
滝野南小学校5年 山田 龍吾



滝野東小学校5年 加藤 伊織



東条中学校1年 梶本 紫月



滝野中学校2年 横山 伊吹



▲表彰を受ける山田 龍吾さん



優秀賞受賞のみなさんには
8月6日人権啓発展会場（や
しろショッピングパークBio）
にて、表彰状の授与と記念
品の贈呈を行いました。

【入賞】



東条西小学校4年 藤原 弘樹



米田小学校2年 藤本 孝祐



東条東小学校3年 竹内 珠音



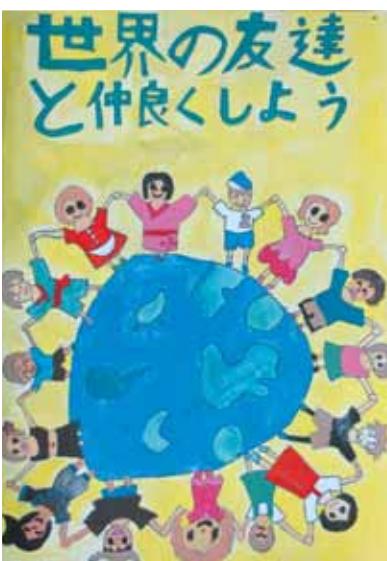
福田小学校5年 山口 健平



鴨川小学校3年 神田 啓伍



滝野東小学校5年 松尾瀧



社小学校4年 井上 唯良



東条西小学校4年 石井 未咲

加東市
マスコットキャラクター
「加東 伝の助」



加東市マスコットキャラクター
「加東 伝の助」



滝野東小学校5年 池田さらな



社中学校3年 田中菜都美



東条西小学校4年 近澤愛理



社中学校1年 大江紗央



社中学校1年 近藤あすか



東条中学校1年 若浦勇樹



東条中学校1年 眞海晴



人権トピックス

12月4日から10日までの1週間は人権週間です



加東市マスコット
キャラクター
「加東 伝の助」

～生きがいと幸せを築きあう人間尊重のまちに～

加東市は、すべての住民がお互いの人権を尊重し合い、同和問題をはじめ、あらゆる差別のない「生きがいと幸せを築きあう人間尊重のまち」の実現を目指しています。

多彩な催しを通じ、参加者の相互交流を図り、人権尊重に根ざしたもの見方や考え方を身につけ実践していきましょう。

人権啓発展

- 日時** 平成25年12月4日(水)午後から
12月19日(木)午前まで
- 場所** やしろショッピングパークBio
2階多目的ホール
- 内容** 市内保育園児による人権をテーマにした共同作品の展示

特設人権相談所を開設します

人権問題でお困りの方は、お気軽にご相談ください。秘密は厳守されます。

- 相談日** 平成25年12月4日(水)
13:30～15:30
- 場所** 社福祉センター



人権を考える市民のつどい

- 日時** 平成26年2月15日(土)
13:30～
- 場所** 滝野文化会館
- 内容**
 - ・中学生による人権作文発表
 - ・住民学習実践報告 など

隣保館相談事業・特設総合相談所

人権や生活の相談をお受けします。お気軽にご相談ください。秘密は厳守されます。

- 相談日** 平成25年11月5日(火)
10:00～12:00 森尾集会所
13:00～15:00 薮公民館

編集後記

今回は人権を身近に感じ、分かりやすく捉えていただくために、「あとおし」という詩(P2)を掲載しています。私もこれを期に自らを見つめ直し、自他を大切にできる、あたたかい人間になれるよう、人権感覚を磨いていきたいと思います。



発行

加東市教育委員会
人権・同和教育研究協議会

〒679-0292
兵庫県加東市下滝野1-2
TEL 0795-48-3598

FAX 0795-48-3705